

(別記)

西伊豆町水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は、天城山系の急峻な山に囲まれ、総面積の約 9 割を山林原野が占めている。そのため、農用地面積は少なく、町域面積に占める割合は約 3%と低い。

農用地は、二級河川宇久須川、仁科川、準用河川太田川沿いに位置し、平坦部では水稲と施設花卉の栽培が行われ、上流地域では野菜栽培が営まれている。また、天城山系の水を利用したわさび栽培が行われるなど特色ある産地が形成されている。

しかし、農業を取り巻く情勢は厳しく、農業従事者の高齢化や後継者不足、農地の遊休化、荒廃化の進行など様々な問題を抱えている。

2 作物ごとの取組方針等

花きや野菜などの特色ある農作物を中心とした地域農業の振興を図るため、農業生産基盤や近代化施設の整備、担い手の育成強化を進めるとともに、農業観光農園等の再生、花卉のブランド化、農作物オーナー制度、グリーン・ツーリズムなどを振興し、農業と観光が連携した活力ある地域づくりを進めていく。

(1) 主食用米

自家消費、個人販売の割合が多い。現行の作付け面積を維持する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ WCS 用稲

エ 加工用米

オ 備蓄米

(3) 麦、大豆、飼料作物

(4) そば、なたね

(5) 高収益作物（野菜等）

「わさび及びいちご等」を振興品目として拡大する。
新規就農者の受け入れを行い、規模拡大をめざす。

(6) 高収益作物（花き）

「キンギョソウ及びアロエ等」を振興品目として拡大する。
アロエについては、町内の加工業者がアロエを必要としているため、農家に対してアロエの作付けを働きかける。

(7) 畑地化の推進

休耕田等の畑地化の推進を行い、農作物の作付を活発化させる。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	6.4	6.4	6.4
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS 用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物			
そば			
なたね			
その他地域振興作物	3.5	3.6	3.6
野菜	1.8	1.9	1.9
花き	1.2	1.2	1.2
景観形成	0.5	0.5	0.5